

基となつて、遂に北方人の間に於る通用の官號・稱號となつたものと思はれる。

küsanlig 即ち「küsan の人」については後に述べる。

(15) ic は「内」の義であるから、ic buirug sängün は「内梅録將軍」の文字を當つべきである。 buirug という語も既にオルホン碑に見えて居る。

(16) bas は頭、首長、Yari は老の義で、邊裔 通典卷百九十七典に突厥では「謂老爲哥利、故有哥利達官」と記してゐる哥利はこれである。

B、(2) wyusikla[r] と記されてゐるのは多分 wajsiklar 即ち中世波斯語から入つて、靈とか神とかの義に用ゐられて居る語の誤寫であらうと思ふ。

(4—5) bitgäci は「書記」の義 tilmäci は「舌人」即ち通譯者の義で、從來發表された吐魯番出土のトルコ文書中にも屢々見えて居る。

(7) inal という語も同じく吐魯番文書に稱號として屢見する名である。

(9) tonga もよく知られて居る語で「勇士」の義である。唐代突厥や回鶻部族の間に「同俄」といふ稱號があつたことは唐書のそれぞれの傳について知り得るところであるが、思ふに此の語に對するものであらう。

此の如くこの祈願文書の斷簡は回鶻人の有した官號若しくは人名（但しこれ等の名についてどれだけの語が官號で、どれだけが人名であるかを判然區別することは今尙ほ困難である）を知り得ることに於て興味あるものである。